

「白人と黒人」

天理小学校 6年 永関 晴一郎

皆さんは「差別」とはどういうことかを知っているだろうか。聞いたことがあっても、身近にそういったことを経験したことはないだろう。差別とは、特定の集団に所属する1人や、性別など特性の属性を持つ1人・集団に対して、その所属や属性を理由に異なる扱いをすることである。国際連合は、「差別には複数の形態が存在するが、その全ては何らかの除外行為である」としている。正当な理由の無き区別、不当な差別は違憲や違法である。ぼくはこのようなことをなくすために、まず昔のことを調べてきた。

一番有名なのは、白人や黒人ではないだろうか。アメリカで昔、このことによって、1人の黒人が立ち上がった。その名も「キング牧師」。本名は、マーティン・ルーサー・キング・ジュニアである。キング牧師とはアメリカ合衆国のプロテスタントバプテスト派の牧師である。市民やメディアからキング牧師と呼ばれ、ガンジーの非暴力的抵抗の教えに共感し、アフリカ系アメリカ人公民権運動の穏健派の指導者として非暴力的抵抗をした。このことで黒人と白人の差別が多少軽くはなったものの、今でも白人と黒人の差別は続いている。たかが肌の色が違うだけで、白人黒人の差別が起きる。もしかしたら、肌の色が違うだけで白人が差別されていたかもしれない。反対の立場だったらということを考えなければいけない。そういったことを自覚しなければいけない。それは、日本のいじめっ子たちにも同じことが言える。人間というものは何かが違ったり、少し遅れているというだけで差別したがる。きっとそれは自分が一番偉いと思い込みたいからだろう。結局は肌の色が違って人間は人間。同じ人間なのである。また、みんなが言っている肌色と呼ばれている色は言っただけではいけない色の表現なのである。これも1つの小さな差別なのである。「差別は犯罪にもつながる」という言葉があるように、たった1つの差別や悪口だけで、尊い1つの命がなくなってしまうことがある。それをなくすために、ぼくはこういったことを提案する。

まず、一人一人が生まれたころから1つの尊い命があるということを自覚しておくことが大切だ。2つ目に町中の掲示板に差別についてのポスターを貼ろう。また、CMに差別についてのことを掲示することも大切である。

しかし、こういったことを意識したとしても、すべての人がすぐにこういったことを意識するわけではない。もちろん、すべての人が意識しなければ差別やいじめがなくなるわけではない。一人一人が生きていて、そのいじめていた子が自殺などをしたり、だれかに相談したりしたときのことを考えていないからである。また、だれかがいじめられていることを知っていても勇気がなく、自分もいじめられてしまうから仕方がないという理由でいじめを見過ごしてしまうこともダメだ。

まずは、一人一人に尊い命があるということを自覚し、自分がいじめられていたらということを考え、自分の立場と相手の立場を明確にしよう。まずは、それを一番最初に自覚しよう。それが一番大切なのである。